原　　文	修　　正　　文
５１頁７～９行「十三湊は、…領主の安藤（あんどう）氏」と、氏名の表記および読みが相互に矛盾している。	
（○月×日）市浦村は、日本海と深い内海の十三湖にはさまれた細長い砂州の上の静かなところです。前潟と十三湖の跡がありました。かつてはたいへんにぎわった港だと授業で習いましたが、いまは想像もできないほど静かなところです。江戸時代になって、港の出口に砂がたまり、港としての機能が失われたからなのではないかと考えられているそうです。	（○月×日）市浦村には、日本海と浅い内海の十三湖にはさまれた細長い砂州があります。そこには、前潟と十三湖の跡がありました。かつてはたいへんにぎわった港だと授業で習いましたが、いまは想像もできないほど静かなところです。江戸時代になって、港の出口に砂がたまり、港としての機能が失われたからなのではないかと考えられているそうです。
（○月×日）福島城跡に行ってみました。城跡は標高約20mの台地上にあります。上の写真で見るように、目の前に十三湖が広がり、遠く南に標高1625mの岩木山がそびえています。福島城は、鎌倉時代の中期から室町時代にかけて津軽一帯を支配した豪族の安東氏が築いた広大な城館です。ここから約2km	（○月×日）福島城跡に行ってみました。城跡は標高約20mの台地上にあります。上の写真で見るように、目の前に十三湖が広がり、遠く南に標高1625mの岩木山がそびえています。福島城は、鎌倉時代の中期から室町時代にかけて津軽一帯を支配した豪族の安藤(安東)氏が築いた広大な城館です。ここから
（○月×日）十三湊を支配下においた安東氏は、積	（○月×日）十三湊を支配下においた安藤(安東)氏は、積極的に日本海の海運に乗り出し、その船は
で運ばれた。津軽半島（青森県）の十三湊（一部）は、日本海航路の中心となり、領主の安藤氏は、広大な地域と交易	で運ばれた。津軽半島（青森県）の十三湊（一部）は、日本海航路の中心となり、領主の安藤(安東)氏は、広大な地域